

Bulletin
of
Center for Collaboration in Community
Naruto University of Education
No.29, Feb, 2015

Contents

Original Papers

- 1 Masao ISHIMURA and Hiroko FUJIMORI
A research on the way of the collaborative relationship between elementary schools and junior high schools based on educational significance on the "steps" between them.
- 9 Riitta JAATINEN
Student Teachers as Co-developers in Foreign Language Class
— A Case Study of Research-based Teacher Education in Finland —
- 21 Masafumi OBAYASHI and Hidekazu SAKO and Katsuhiko EGAWA
A study on knowledge and skill of the post of principal and vice-principal required for future school management
— From a result of the free description-style survey replied by the principal and vice-principals —
- 31 Takuya TOGUCHI and Makiko KASAI
Possibility of Counseling Psychology that Introduces the Queer Pedagogy:
Theoretical Study for Establishing the Queer in Counselor Training
- 43 Hidekazu SAKO
Research and Development on Training Program of School Organization Management based on Theory of School Organization Development (II)
- 53 Ikuko KAYA, Kanako UCHIDA and Katsuyuki YAMASAKI
Educational Effects of School-Based Prevention Education Program "Development of Understanding and Regulating Emotions": The Effects Among Fifth Grade Children
- 63 Kazuyuki TAMURA, Houmphanh KHANTHAVY, Yukio TERASHIMA and Takeshi KOZAI
Curriculum Guideline for the "World Around Us" in Lao People's Democratic Republic (2014 Before Revision)
- 75 Kazuyuki TAMURA, Sanae KAWAMATA, Kaori KITANO, Atsushi MACHIDA, Hiroki ISHIZAKA and Takeshi KOZAI
Current Situation of Philippines' Education on Science Literacy:
Status of Students' Problem Solving Skills through Experiment of Pendulum
- 83 Sanae KAWAMATA, Kaori KITANO, Atsushi MACHIDA, Kazuyuki TAMURA, Hiroki ISHIZAKA and Takeshi KOZAI
Students' Consciousness of Risk Prevention about Local Disasters in Camarines Sur, Philippines
- 89 Katsuhiko EGAWA
An Examination of the effectiveness of copying in composition learning
: Focusing on the Child who is Weak in Composition in the Sixth Grade of Elementary School
- 99 Katsuhiko EGAWA
An Examination of the Effectiveness of Deductive Problem-solving Learning
: Focusing on the Science Lesson in the Fourth Grade of Elementary School
- 109 Takeshi KOZAI, Manami NISHI, Keoasa BOUAKHONG, Keth PHAMMLACK, Houmphanh KHANTHAVY
Kazuyuki TAMURA and Yukio TERASHIMA
Issues with Science Education in Elementary Schools of Lao People's Democratic
- 121 Yohei MATSUGAKI, Takeshi KOZAI and Hiroki ISHIZAKA
Overview of the primary science education in Mozambique
Resumo do ensino primário de Ciências Naturais em Moçambique
- 133 Masao ISHIMURA and Hiroko FUJIMORI
Challenges of Japanese Modern School Evaluation System
- 139 Yasunori MATSUO and Makiko KASAI
Defining and Developing the Interpersonal Adjustment
Competency Program for School Students:
- 151 Ayako KAWAKAMI, Emi ISHIBASHI, Katsuhiko EGAWA and Norifumi MASHIKO
The Design of Teaching Incorporated the Framework of Universal Design for Learning and its Effectiveness
- 161 Yoichi MAEDA, Hidekazu SAKO, Naoto KUGA, Masahiro MURAKAWA, Masashi KANEKO, Hidefumi KUZUKAMI, Akiyoshi SHIBAYAMA, Kayo SUEUCHI and Seiki IKEDA
Practical Study on Educational Improvement through Partnership among University, School and The Board of Education (VII)
The progress of school assistance by the cooperative project of Naruto University and Suzuka Board of Education.
- 169 Kenji SAKANE and Eiko MASUI
Study on the Education Problem Solving through Cooperation and Integration of Each School and Naruto University of Education and Naruto City Board of Education
— About the Disaster Prevention in School —
- 173 Hassan A. ELIWA, Mamoru MURATA, Hiroaki OZAWA, Takeshi KOZAI, Natsuko ADACHI and Hiroshi NISHIMURA
Post Aswan High Dam flash floods in Egypt: Causes, consequences and mitigation strategies

鳴門教育大学
学校教育研究紀要

No.29

- 小・中学校間の「段差」の教育的意義を踏まえた小・中「連携」のあり方 1 石村 雅雄, 藤森 弘子
- Student Teachers as Co-developers in Foreign Language Class 9 Riitta JAATINEN
— A Case Study of Research-based Teacher Education in Finland —
- 将来の学校経営に必要とされる校長・教頭職の知識・スキルに関する研究 21 大林 正史, 佐古 秀一, 江川 克弘
— 校長・教頭を対象とした自由記述式の質問紙調査の結果から —
- クィア・ペダゴジーを導入したカウンセリング心理学の可能性 31 戸口太功耶, 葛西真記子
— カウンセラー養成における実践のための理論研究 —
- 学校組織マネジメント研修プログラムの構成と効果に関する研究(II) 43 佐古 秀一
— 学校組織開発理論に立脚した論拠と有効性の基盤を有する組織マネジメント研修の開発 —
- 学校予防教育プログラム「感情の理解と対処の育成」の教育効果 53 賀屋 育子, 内田香奈子, 山崎 勝之
— 小学校5年生を対象に —
- ラオス人民民主共和国『World Around Us』指導要領(全訳) 63 田村 和之, カンタヴィー フンパン
(2014年(改訂前)版) 寺島 幸生, 香西 武
- フィリピンの科学リテラシー育成カリキュラムの実態: 75 田村 和之, 川真田早苗, 北野 香
振り子の実践から見た生徒の問題解決能力の現状 町田 篤志, 石坂 広樹, 香西 武
- フィリピン・カマリネス・スル州における防災に関する生徒の意識に 83 川真田早苗, 北野 香, 町田 篤志
ついて 田村 和之, 石坂 広樹, 香西 武
- 視写による作文学習の有効性の検討 89 江川 克弘
— 小学校6年生の作文の苦手な児童を対象として —
- 演繹的に問題を解決して学習する過程についての一考察 99 江川 克弘
— 小学校における理科の授業を通して —
- ラオスにおける小学校理科の課題 109 香西 武, 西 真奈美
Keoasa BOUAKHONG, Keth PHAMMLACK
Houmphanh KHANTHAVY, 田村 和之
寺島 幸生
- モザンビーク共和国小学校理科カリキュラムの概要と課題 121 松垣 洋平, 香西 武, 石坂 広樹
～国際協力機構(JICA)研修事業を通して～
- 現在の学校評価の問題点 133 石村 雅雄, 藤森 弘子
- 児童生徒の人間関係調整力の育成に関する研究 139 松尾 康則, 葛西真記子
— 人間関係調整力の定義と, 育成プログラムの開発を通して —
- 「学びのユニバーサルデザイン」の枠組みを援用した授業設計とその効果 151 川上 綾子, 石橋 恵美, 江川 克弘
益子 典文
- 大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究(VII) 161 前田 洋一, 佐古 秀一, 久我 直人
— 本学と鈴鹿市教育委員会との連携事業に関する学校支援の経過 — 村川 雅弘, 金児 正史, 葛上 秀文
芝山 明義, 末内 佳代, 池田 誠喜
- 鳴門市教育委員会及び各学校と鳴門教育大学との連携の一体化による 169 阪根 健二, 益井 英子
教育課題解決に関する研究
— 学校防災を考える —
- Post Aswan High Dam flash floods in Egypt: Causes, consequences and mitigation strategies 173 Hassan A. ELIWA, Mamoru MURATA
Hiroaki OZAWA, Takeshi KOZAI
Natsuko ADACHI and Hiroshi NISHIMURA

鳴門教育大学学校教育研究紀要 投稿要項

- 鳴門教育大学学校教育研究紀要（以下「紀要」という。）は、主として次の投稿論文を掲載する。
 - 地域連携センター（以下「センター」という。）の客員研究員研究プロジェクト（以下「研究プロジェクト」という。）の研究成果である未発表の投稿論文
 - センターの活動として行う研究等に関する未発表の投稿論文
 - その他センターが特に認めた未発表の投稿論文
 - 紀要に執筆できる者は、次のとおりとする。
 - 本学の専任教員及び附属学校園教員
 - 本学の専任教員を論文の共著者とした研究プロジェクトの研究分担者
 - その他センター所長が特に認めた者ただし、(1)(2)(3)ともに、共著の場合は本学の専任教員及び附属学校園教員を共著者とし、第一著者は本学の専任教員、附属学校園教員、研究員、客員研究員、研究補佐員、大学院生（連合大学院生を含む。）のうちいずれかとする。
 - 投稿論文の区分は、次のとおりとする。
 - 問題提起と研究成果・理論的考察を備えた、比較的まとまったものを原著論文とする。
 - 研究の経過報告、調査資料の報告などをとりまとめたものを研究報告とする。
 - 第一著者として投稿できる論文数は、1執筆者につき2編までとする。
 - 投稿論文の掲載の可否及び掲載の順序などについては、センター所長及びセンター担当教員で構成する学校教育研究紀要編集委員会において決定する。
 - 投稿論文の著作権及び公開については、次のとおりとする。
 - 紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属する。ただし、鳴門教育大学に対して、継続的に複製権、公衆送信権を許諾することとする。
また、投稿論文が第三者の著作権その他の権利の侵害問題を生じさせた場合、一切の責務は投稿者が負うものとする。
 - 論文は原則としてウェブページで公開するものとし、掲載が認められた時点で、著者の許諾があったものとして取り扱う。なお、特別な事情によりウェブページでの公開を許諾できない場合は、理由書を学校教育研究紀要編集委員会に提出し、非公開とすることに対して許諾を得るものとする。
 - 執筆要項は、原則として次のとおりとする。
 - 原稿は、和文あるいは英文によるものとする。原則としてMS-Wordあるいは一太郎を用いる。印刷サイズはA4版の縦おきで、上下左右の余白は各々25 mm, 20 mm, 15 mm, 15 mmとし、文と図、表、写真、文献等を含めて作成する。和文、英文ともに刷り上がりページ数は、原則として原著論文は10ページまで、研究報告は6ページまでとする。
 - 和文原稿は、常用漢字、新かなづかいで横書きとする。冒頭には、タイトル、タイトル（英文）、著者名、所属と所在地、著者名（英文）、所属と所在地（英文）、抄録（200～400字）、キーワード（重要な順に3～5語）、アブストラクト（英文、200ワード以内）、キーワード（英文）を1段組で、それ以降の本文、引用文献等は2段組（25字×48行×2段組、段間は10 mm程度）で記す。
本文の書体は明朝体（9 pt）を標準とする。句読点は、原則として「」（コンマ）」と「。（句点）」に統一する。1桁の数字は全角、2桁以上の数字は半角、アルファベットは半角を基本とする。
 - 英文原稿は、冒頭に、タイトル、著者名、所属と所在地、アブストラクト（200ワード以内）、キーワード（重要な順に3～5語）を1段組で、それ以降の本文、引用文献は2段組（48行×2段組、段間は10 mm程度）で記す。
本文の書体はTimes（9 pt）を標準とする。
 - 本文の見出しの番号の付け方は、和文原稿ではゴシック体（9 pt）全角で、欧文原稿ではArial（9 pt）で、次のようにする。
大見出し ローマ数字で表す。中央揃えを標準とする。
中見出し アラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
小見出し 片括弧付きアラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
I. …
1. …
1) …
2) …
3) …
2. …
2. …
 - 図表
図（写真を含む）や表は、鮮明で内容が判別できるものを用いる。図表は必要最低数にとどめ、1枚の図表の最大サイズは刷り上がりで見開き2ページを超えないものとする。必要な場合は1段組にしてもよい。
図題は図の下に、和文原稿では図1、図2…のように、英文原稿ではFig.1、Fig.2…のように記す。また、表題は表の上に、和文原稿では表1、表2…のように、英文原稿ではTable1、Table 2…のように記す。図題、表題ともに、和文原稿はゴシック体（9 pt）、英文原稿ではArial（9 pt）で、中央揃えとする。
写真は白黒写真を原則とし、挿入位置及び仕上りサイズを原稿用紙上につける。なお、カラー写真の掲載を希望する場合には、その印刷実費は第1著者又は研究代表者の個人（研究費）負担とする。
 - 参考文献及び引用文献
 - 本文中での文献の引用は、英字、記号、数字を半角とし、以下のとおりとする。
(例) GAGNE (1970b) は ……
前田 (1969) は、 ……。
…と述べている (GAGNE, 1970b)。
…と述べている (前田, 1969)。
 - 文献は、投稿論文の最後に一括して、著者名のアルファベット順に表記する。記述は英字、記号、数字を半角とし、以下の形式を標準とするが、他の形式を用いてもよい。
 - 論文の場合は、著者名、発表年、表題、雑誌名（書名）、巻（号）、ページ。
(例) 鳴門太郎 (1900), 日本の学校, 日本教育, 16 (1), pp. 1－10.
鳴門太郎:『日本の学校』、『日本教育』, Vol.16, No.1, pp. 1－10, 1990年.
『日本の学校』, 鳴門太郎, 『日本教育』, 第16巻第1号, 1－10頁, 1990年.
 - 単行本の場合は、監編著者名、出版年、書名、出版社、ページ。
(例) 鳴門太郎編著 (1900), 日本の学校, 日本出版, pp. 1－200.
鳴門太郎編著:『日本の学校』, 日本出版, 1－200頁, 1990年.
『日本の学校』鳴門太郎編著 (日本出版, 1990年, 全200頁)
 - 外国文献の単行本の場合は、編著者名（出版年）、書名、出版社所在地、出版社、ページ。
(例) NARUTO,Taro (1900) ,The Japanese School, Tokyo, Nippon Syuppan, pp. 1－200.
 - 注記は必要な場合には本文の最後に、文献の前に一括して記述し、本文中では該当箇所の右肩上付で、注1）、注2）のように示す。
 - 研究プロジェクトの研究成果である原著論文又は研究報告については、文献の後に付記として、当該研究プロジェクトの年度、研究題目を明示する。
- 投稿は、文書ファイルを、社会連携課地域連携係までメール（chiiki@naruto-u.ac.jp）にて提出する。
- 校正は著者が責任を持って行い、誤植の訂正のみとし内容の加筆、修正、削除等は受付けない。なお、著者校正は初校のみとする。
- 別刷の費用は、個人（研究費）負担とする。

2014年度 学校教育研究紀要編集委員会委員

| | |
|---------|-----------------|
| 吉 本 佐雅子 | 地域連携センター所長 |
| 阪 根 健 二 | 教育連携コーディネート分野 |
| 藤 原 伸 彦 | 教育情報コミュニケーション分野 |



2014年度 鳴門教育大学学校教育研究紀要 No.29

| | |
|------|--|
| 発行年月 | 2015年2月 |
| 編集 | 鳴門教育大学地域連携センター |
| 発行 | 鳴門教育大学地域連携センター 〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748 電話 088-687-6101 FAX 088-687-6100 |
| 印刷 | (協)徳島印刷センター 〒770-8056 徳島市問屋町165 電話 088-625-0135 FAX 088-622-0734 |

